

病院の役割と今後について

資料5

【令和4年7月1日】

	病院名	許可病床数					病床機能（一般、療養病床の内訳）						
		一般	療養	精神	結核	感染症	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	病床		
宇治市	医療法人栄仁会宇治おうばく病院	453	58	395			58				58		
	医療法人長安会 中村病院	103	103				103				103		
	宇治武田病院	177	177				177	134	43				
	社会福祉法人あじろぎ会 宇治病院	253	140	113			253		50		203		
	医療法人徳洲会 六地総合病院	199	199				199		46	110	43		
	医療法人社団一心会 都倉病院	55	35	20			55		35		20		
	医療法人仁心会 宇治川病院	179	179				179				179		
	医療法人徳洲会 宇治徳洲会病院	473	473				473	67	364	42			
	京都府立洛南病院	256		256			0	-	-	-	-	-	
城陽市	医療法人啓信会 京都きづ川病院	313	307			6	307		150	104	53		
	京都府立心身障害者福祉センター附属リハビリテーション病院	25	25				25			25			
	独立行政法人国立病院機構 南京都病院	335	300		35		300			100	180	20	
	一般財団法人日仲会医療福祉機構 あそかビハラー病院	28	28				28				28		
	医療法人晴風園 ほろゆうりハビリテーション病院	88	47	41			88		47	41			
八幡市	社会医療法人美杉会 男山病院	199	199				199		127	47	25		
	社会医療法人美杉会 みのやま病院	50	50				50				50		
	医療法人社団医聖会 京都八幡病院	156	96	60			156				60	96	
	医療法人社団医聖会 八幡中央病院	150	98	52			150			98	52		
京田辺市	医療法人芳松会 田辺病院	291	109	182			109				109		
	医療法人社団石鏡会 京都田辺記念病院	120	120				120			120			
	医療法人社団石鏡会 京都田辺中央病院	167	167				167	60	55	52			
	医療法人社団石鏡会 同志社山手病院	50	50				50				50		
久御山町	医療法人八仁会 久御山南病院	60	60				60				60		
	京都岡本記念病院	419	419				419	168	192	59	5		
		4,599	3,049	676	833	35	6	3,725	295	1,200	841	1,273	116

病院別の役割と展望（抜粋）

病院名	地域において今後担う役割（抜粋）	今後の展望（抜粋）
医療法人栄仁会 宇治おうばく病院	○精神科救急医療体制整備事業に尽力し、認知症への対応も含め、精神科医療を通じて、地域の医療機関の信頼を得ると共に、地域住民の安心に寄与する。	○引き続き、精神科救急・急性期を担う病院として医療を提供し、行政機関・医療機関との連携を強化・維持していく。
医療法人長安会 中村病院	○在宅療養支援病院として患者様及びそのご家族様と24時間連絡が取れる体制や患者様の求めに応じて24時間往診の可能な体制を維持し、在宅看取も行う。	○外来診療の拡大 ○採用体制を検討し、看護要員の確保に努める。
宇治武田病院	○安全で質の高い医療の提供のために日々研鑽し、技術と知識の習得に努め、山城北地域の中核病院として医療を通じて、地域住民の健康を守り在宅医療にも寄与するとともに地域社会の発展に貢献する理念で山城北地域の医療を支えていく。	○初期段階の認知症患者への関わりから、放射線治療や手術ロボットなど高度な医療にも取組み医療機器も充実し療養環境に満足してもらえる病院として今後も地域医療の貢献にする。
社会福祉法人あじろぎ会 宇治病院	○社会福祉法人立病院として、地域における経済的・社会的困窮者に対する、無料・低額で医療を提供。 ○高度急性期病院の後方支援病院	○当該地域において医療・福祉・介護に対し近隣医療機関等と連携し、シームレスな地域となることを主導していく。 ○病院施設の移転・建替えを通じて地域ニーズに合致した医療体制を構築する。
医療法人徳洲会 六地総合病院	○近隣の高度急性期病院のバックアップ機能として、急性期、回復期機能を維持し、転院依頼を断ることなくスムーズに受入れ、高度急性期病院がストレスなく重症患者を常に受け入れできるようサポート。	○法人内での許可病床編成の見直しも検討する。同一医療圏における同一開設者が開設する病院間の病床移転を検討。 ○高度急性期病院との連携強化し、当院で急性期・回復期機能を受入れ、慢性期・生活期機能の病院・施設へ橋渡しを行っていく。
医療法人社団一心会 都倉病院	○少産少子化で分娩施設や小児に対応できる施設が減る中、今後も地域の周産期医療を守るとともに、母子がいつでも診てもらえ、相談に乗れるような安心の子育て環境が出来るように協力していきたい。	○引き続き、産婦人科・小児科については、患者様に寄り添った細やかな医療を提供し、地域から信頼される病院として貢献する。 ○内科、外科については慢性期を中心に、近隣急性期病院の後方病院として役割を果たしていく。
医療法人仁心会 宇治川病院	○医療・福祉・介護・予防・生活支援を一体的に提供する地域包括ケアシステムの構築に向け、引き続き高齢者にきめ細かい入院医療を提供するとともに地域医療が円滑に機能するように病院として尽力していく。	○外来診療の拡大 ○在宅への支援 ○急性期機能の拡大

宇治市

病院名	地域において今後担う役割（抜粋）	今後の展望（抜粋）
医療法人徳洲会 宇治徳洲会病院	<p>○感染症の重症患者を受け入れる重点医療機関として高度かつ専門的な高度急性期病院としての役割を継続</p> <p>○地域包括ケアシステムにおける医療・介護・福祉の連携システムを自己完結型で整備していくことができる地域総合拠点施設群の形成を確立。病院を本拠として、老健、特養、在宅療養支援診療所、訪看ステーション、ヘルパーステーションを敷地内や近隣で整備、今後はリハビリテーション病院、第2老健、サ高住、グループホームを整備する。</p> <p>○指定感染症医療機関として、新興感染症に対応しやすい施設・設備の整備並びに感染拡大時を想定した専門人材の育成を実施。</p>	<p>○若手医療スタッフの教育・育成のため、別館増築を計画しており、教育・研修センターを整備。</p> <p>○新型コロナウイルス感染症の重症患者に対応できる高度急性期病院の必要性が広く認識され、当院はそれを認知されたものと思う。地域包括ケアシステムの構築と地域医療構想実現は、新興・再興感染症や大規模災害時に対応するためにも必要で、平時の体制が整っていないければ、緊急時の体制構築も困難なので、より一層、高度急性期・急性期機能の充実を図っていく。</p>
京都府立洛南病院	<p>○認知症治療においてとぎれない医療提供のためのかかりつけ医、一般病院、専門医療機関等によるネットワーク体制の中核として機能。</p> <p>○国が提唱する「精神障害にも対応した地域包括ケアシステム」における医療、相談支援分野の主要な構成機関として機能。</p> <p>○災害時の京都府域における精神科医療の拠点。</p>	<p>○高齢化や精神科医療の進歩により、認知症や発達障害、依存症などの精神疾患を合併症としてもつ患者の受療機会が増加し、身体科医療機関と連携し、府内唯一の公立精神単科病院として政策医療上の課題に取り組む。</p> <p>○多様化する精神科医療ニーズに応えるとともに、患者の療養環境改善を図るため、現在地に於いて全面建替整備を行う。</p>
医療法人啓信会 京都きづ川病院	<p>○地域の介護、老人施設や病病・病診連携への体制整備</p> <p>○救急告示病院としての機能強化</p> <p>○人材確保と定着</p> <p>○ケアミックス型病院としての機能維持</p>	<p>○入退院支援センターの活用</p>
京都府立心身障害者福祉センター 附属リハビリテーション病院	<p>○府立医大と連携を取りながら高度な医療を提供するとともに急性期から生活（維持）期までの切れ目のないリハビリを提供する。</p> <p>○地域連携部門の強化を図り、病診連携の充実、入院の受入、退院時の環境整備を行うなど、医療と福祉・介護の連携により地域における包括的な支援体制を提供する。</p>	<p>○府立医大等と連携し、急性期から生活（維持）期までの切れ目のない治療・福祉・スポーツ施設等併設の特色を生かし、患者さんの生活・就労復帰をサポートする。</p> <p>○高齢化の進展に伴うリハビリテーション需要の増加、小児疾患や障害者等の生活支援等におけるリハビリテーションの果たす役割の拡大、医療・福祉の連携したリハビリテーション等に関わる人材育成や交流促進等も見込まれる。</p>
城陽市 独立行政法人国立病院機構 南京都病院	<p>○慢性呼吸不全患者の急性増悪に対し、専門的で高度な呼吸医療を提供するとともに、様々な呼吸器疾患に対し先進的な医療を提供するためには、急性期病棟としての人員確保、施設設備を継続。</p> <p>○呼吸器疾患に対する専門的医療を提供し、結核医療についても府下の基幹病院としての役割を果たす。</p>	<p>○地域の紹介患者を積極的に受入、一定程度の急性期機能を提供していく。</p> <p>○後方施設として急性期総合病院からのポストアキュート患者の転院も積極的に受入、地域の急性期機能の維持に貢献。</p> <p>○セーフティネット医療（重症心身障害、神経難病等）を今後も継続して提供。</p>

病院名	地域において今後担う役割（抜粋）	今後の展望（抜粋）
一般財団法人日伸会医療福祉機構あそかびハート病院	<p>○新法人下でも西本願寺と連携を密にとり、仏教のホスピスとしての特色を継承して各医療機関・福祉施設等と柔軟に連携する。</p> <p>○がん患者やその家族にとってより身近にご利用いただける病院（ホスピス）を目指し、「当院の緩和」を周知するとともに、些細な事でも相談いただける窓口として、迅速で柔軟な対応が可能な施設を目指す。</p>	<p>○コロナ禍や職員の体制の影響で十全に病床を活かし切れしていない現状を改善し、より多くの当院を希望する患者に携われるよう稼働率等の向上を目指す。</p>
医療法人晴風園 ほうゆうハビテーション病院	<p>○急性期治療後の患者を早期に積極的に受け入れ、急性期病院の負担を軽減することが当院の役割と認識している。</p>	<p>○2023年7月に宇治市へ新築移転。</p> <p>○移転後は全床（88床）回復期リハビリテーション病棟として運営予定。</p>
社会医療法人美杉会 男山病院	<p>○八幡市の中核病院として急性期医療を担うとともに、回復期、慢性期、在宅医療、介護まで包括的なサービスを提供し、地域の高齢化支援に努める。</p>	<p>○引き続き急性期機能を担う病院として、医療の質の向上に取り組み、地域医療に貢献するとともに、回復期機能、慢性期機能ともバランスのとれた医療を維持していく。</p> <p>○地域の医療・保健・福祉を一体的に提供する地域包括システムを構築し、また、地域に向けての医療に関する教育・啓発活動も積極的に行っていく。</p>
社会医療法人美杉会 みのやま病院	<p>○医療・保健・介護・予防を一体的に提供する地域包括ケアシステム構築向上を引き続き目指し、高齢者・障害者の入院医療を提供するとともに、在宅医療を支援できるよう終末期の看取り対応、緊急入院受け入れ等を行っていく。</p>	<p>○山城北医療圏における病床整備計画によって増築準備を進めている。地域包括ケア病棟（20床）を新たに開設。（2025年度）</p> <p>○同年、人工透析ベッドの増床（30床→41床）</p>
医療法人社団医聖会 京都八幡病院	<p>○系列の八幡中央病院と実質一体での医療提供機能の強化・効率化。入退院に関する窓口を一元化。</p> <p>○慢性期医療及び在宅医療の提供継続。</p> <p>○老朽化した京都八幡病院と八幡中央病院の統合建替えを実施予定。</p>	
医療法人社団医聖会 八幡中央病院	<p>○地域医療・介護の一体的・包括的な提供（地域包括ケア）。</p> <p>○今後の在宅需要の増大に向け、在宅医療（訪問診療、訪問看護、訪問リハ）の展開拡大を図り、地域の診療所の負担軽減にも注力。</p> <p>○八幡市と緊密に連携し、感染症対策や予防医療等の提供機能を強化。</p>	<p>○老朽化した両病院の統合建替えを実施。「医療機能の集約化・効率化・高度化」「患者、職員のアメニティー向上」「パンデミックへの対応力の強化」「自然災害等へのBCP対策の強化」を目指す。</p> <p>○八幡市を中心とした地域のニーズに根差した、更なる医療介護の提供体制の拡充。</p>
医療法人芳松会 田辺病院	<p>○在宅生活が難しい認知症高齢者を中心に、引続き入院医療を提供する。</p> <p>○他院での対応困難な精神疾患の患者の入院医療を提供する。</p>	<p>○病院での入院医療と同法人内の三山木診療所での外来診療と連携を強化していく。</p> <p>○同法人内の認知症対応型通所介護のデイサービスみやまき及び通所リハビリテーションのデイケアあそらと在宅医療についても連携を図っていく。</p>

八幡市

	病院名	地域において今後担う役割(抜粋)	今後の展望(抜粋)
京田辺市	医療法人社団石鎚会 京都田辺記念病院	<p>○京都府リハビリテーション教育センターの教育指定病院として、リハビリテーション科医師をはじめとした医療従事者の育成を行う。</p> <p>○より質の高い回復期リハビリテーションおよび透析治療を提供できるよう努め、京都府南部地域における京都府地域包括ケア構想の一翼を担う。</p>	<p>○質の良い回復期リハビリテーションを提供することで、患者の生活の質の向上・在宅復帰支援に寄与し続けていきたい。</p> <p>○透析部門に関しては、透析導入患者のQOLを維持し、生活を支える視点でのかわりを継続していくとともに、透析受け入れ枠の拡大を図っていく。</p>
	医療法人社団石鎚会 京都田辺中央病院	<p>○二次救急医療機関として救急医療を提供する。京田辺市は人口増加地域であり、新型コロナウイルス感染拡大前は年間3,800件以上の救急車受入実績があり、今後も地域ニーズに応えていく必要がある。</p> <p>○在宅診療においても、地域の診療所との連携を密にし、病院の立場からサポートする役割を担っていく。</p>	<p>○現地建て替えの第2期工事が竣工すれば200床を超える規模での運用となる。</p> <p>○脳卒中、循環器病、整形外科疾患等に加えてがん診療の充実を図り、地域完結型で一定の対応ができるよう、ハード・ソフト面の整備を進める。また、サブアキュート・ポストアキュート機能を有する「地域急性期病棟」・「地域包括ケア病棟」を開設。</p> <p>○小児・周産期医療については、隣接する山城南園域も含めた形での基幹病院的役割を果たしていく。</p>
	医療法人社団石鎚会 同志社山手病院	<p>○地域連携の中での役割として、慢性期機能の病棟として難病患者を中心とした入院受け入れを継続。</p> <p>○同地域にお住まいの方にとっての「かかりつけ医」としての役割を果たせるような外来診療を提供する。</p>	<p>○慢性期入院医療を担う病院として、地域の他の医療・介護施設との連携をさらに強化していく。</p> <p>○府の保健医療計画ならびに地域包括ケア構想の展開に合わせて、地域に求められる医療を展開していく。</p>
久御山町	医療法人八仁会 久御山南病院	<p>○難病、障害者（人工呼吸器管理を含む）および高齢者の入院受入。</p> <p>○重度心身障害者（児）の医療的ケアが必要な方の短期入所サービスの提供。</p>	<p>○外来診療を継続するための診療体制の強化。</p> <p>○難病、障害者（人工呼吸器管理）の入院受入および医療的ケアが必要な重度心身障害者（児）の受入に際する看護職員への研修制度の充実。</p>
	京都岡本記念病院	<p>○『紹介患者は絶対に断らない』方針のもと、両医師会と連携し、病診・病病連携に積極的に取り組む。</p> <p>○地域がん診療拠点病院として専門的ながん医療の提供、がん診療の地域連携協力体制の構築、がん患者・家族に対する相談支援及び情報提供。</p> <p>○地域住民への健康教室を開催し、健康増進を図るとともに高校生・中学生へのACP教育/救命講習等を通じ、医療介護従事者の次世代育成を継続して行う。</p>	<p>○新たに回復期機能に特化した100床の病院を新規開設し、回復期機能病床を充実する。これにより現在の高度急性期、急性期医療の一層の充実を可能とするだけでなく、医師会等との連携強化により在宅医療との一層の連携・充実を担う。また、増加する救急搬送に対応するための救急専用病床を確保する。</p> <p>○新型コロナウイルスの感染拡大により、山城北医療圏のみならず、府全体の新興感染症に対する入院治療体制の脆弱さが明らかとなった。病院新築は新興感染症拡大時に感染症専用病院へ転用可能な構造と機能（重症病床を含む）を予め備えたものとする。</p>

病院の役割と今後について（令和4年7月1日時点）

病 院 名	宇治おうばく病院	中村病院	宇治武田病院
所 在 地	宇治市五ヶ庄三番割3 2番地 1	宇治市大久保町平盛91番地 8	宇治市宇治尻.36-26
許可病床数（床）	453	103	177
一般（床）	0	0	177
療養（床）	58	103	0
精神（床）	395	0	0
結核（床）	0	0	0
感染症（床）	0	0	0
主 な 診 療 科 目	精神科 神経内科 内科	内科 外科 整形外科	内科 消化器科 整形外科
病床の種別（一般）	0	0	177
〃（療養）	58	103	0
病 床 機 能	58	103	177
高度急性期	0	0	0
急性期	0	0	134
回復期	0	0	43
慢性期	58	103	0
介 護 医 療 院	60（令和元年10月）	—	—
主 な 病 院 機 能	<ul style="list-style-type: none"> ・精神病棟(15対1)入院基本料 ・精神科救急急性期医療入院料 ・精神科急性期治療病棟入院料 ・精神療養病棟入院料 ・認知症治療病棟入院料 ・京都府精神科救急医療施設病院（身体合併症型）指定 	<ul style="list-style-type: none"> ・在宅療養支援病院 ・急性期病院からの後送病院 	<ul style="list-style-type: none"> ・救急告示病院 ・二次病院群輪番制度協力医療機関 ・DPC標準病院群 ・急性期一般入院基本料 4 ・地域包括ケア病棟入院料 1 ・在宅療養支援病院
自 施 設 の 現 状	<p>○精神科救急医療体制整備事業において、救急輪番病院として精神科救急・急性期医療を提供しつつ、身体合併症患者の診療に対応。</p> <p>○精神科のあらゆる疾患の診療に対応。</p> <p>○長期入院患者の在宅移行を促進し、生活支援に力を入れている。</p> <p>○障害者支援施設として、グループホーム、就労移行支援事業所を運営し、介護保険施設として、グループホーム、通所介護、訪問看護ステーション等を運営。</p>	<p>○本年2月～3月にかけて新型コロナウイルスの院内感染により、稼働病床数が6割程度に低下。</p> <p>○院内感染事態までは病床稼働も90%後半を維持していたが、もとの水準に10月でようやく回復。</p>	<p>○内科、消化器科、整形外科、眼科等25診療科目を標榜、急性期機能を担う病院として医療を提供しつつ先駆的に地域包括ケア病棟を導入し地域のニーズに対応。</p> <p>○整形外科は常勤医7名体制（小児整形・膝関節・手外科・リウマチなど専門医で構成）、府内初の人工膝関節手術ロボットを導入し、またAPS療法（再生医療）などにも力を入れている。</p> <p>○放射線治療（トモセラピー等）には3人の常勤の放射線治療医がおり、毎日20人前後の患者さんを治療し、がん治療の成果を上げている。</p> <p>○常勤麻酔科医3名を確保し、2021年は手術件数2693件（内全身麻酔件数1035件）で地域貢献。</p>
自 施 設 の 課 題	<ul style="list-style-type: none"> ○地域の医療機関とのさらなる連携の強化 ○医師の確保、看護補助者の確保 ○障害者支援施設の整備 ○介護保険施設における従事者の確保 	<ul style="list-style-type: none"> ○紹介患者のスムーズな転院引受 ○高齢者を幅広く受け入れ、長期療養が可能な病院として、機能していくと共に、外来診療も積極的に行う。 ○看取希望患者の引受 ○看護職員の安定した就業（マンパワー不足） 	<ul style="list-style-type: none"> ○集中治療室を開設し重症患者を受け入れたいが、医師や看護師の不足により実現できておらず、救急受入をすべて対応できていない。 ○入院・外来・健診部門それぞれが手狭な状況であり、増築を検討する必要がある。 ○在宅部門の強化。

<p>地域において今後担う役割</p>	<p>○精神科救急医療体制整備事業に尽力し、認知症への対応も含め、精神科医療を通じて、地域の医療機関の信頼を得ると共に、地域住民の安心に寄与する。</p>	<p>○在宅療養支援病院として患者様及びそのご家族様と24時間連絡が取れる体制や患者様の求めに応じて24時間往診の可能な体制を維持し、在宅看取も行う。</p>	<p>○安全で質の高い医療の提供のために日々研鑽し、技術と知識の習得に努め、山城北地域の中核病院として医療を通じて、地域住民の健康を守り在宅医療にも寄与するとともに地域社会の発展に貢献する理念で山城北地域の医療を支えていく。</p>
<p>今後の展望</p>	<p>○引き続き、精神科救急・急性期を担う病院として医療を提供し、行政機関・医療機関との連携を強化・維持していく。 ○身体合併症患者の診療につき、近隣の医療機関から患者の受け入れを行い、必要な対応を行う。 ○入院患者の在宅移行を継続して促進し、アウトリーチ及び訪問看護の提供により、精神疾患患者の地域生活を支援する。</p>	<p>○外来診療の拡大 ○採用体制を検討し、看護要員の確保に努める。 ○看護要員の確保により課題をクリアし、地域での当院の役割を果たす。</p>	<p>○引き続き急性期機能を担う病院として発展するとともに、回復期機能ともバランスの取れた機能を維持していく。 ○初期段階の認知症患者への関わりから、放射線治療や手術ロボットなど高度な医療にも取組み医療機器も充実し療養環境に満足してもらえる病院として今後も地域医療の貢献にする。 ○自施設の課題である増築を検討。</p>
<p>新興感染症対応における病院機能</p>	<p>○診療検査医療機関（外来医療） ○療養支援（感染症からの回復患者受入）</p>	<p>○療養支援（感染症からの回復患者受入）</p>	<p>○陽性患者の入院受入医療機関 ○疑似症患者の入院受入医療機関 ○診療検査医療機関（外来医療） ○療養支援（感染症からの回復患者受入）</p>

病院の役割と今後について（令和4年7月1日時点）

病 院 名	宇治病院	六地藏総合病院	都倉病院
所 在 地	宇治市五ヶ庄芝ノ東54-2	宇治市六地藏奈良町9番地	宇治市宇治山本27
許可病床数（床）	253	199	55
一般（床）	140	199	35
療養（床）	113	0	20
精神（床）	0	0	0
結核（床）	0	0	0
感染症（床）	0	0	0
主 な 診 療 科 目	内科 整形外科 泌尿器科	整形外科 内科 外科	産婦人科 内科 外科
病床の種別（一般）	140	199	35
〃（療養）	113	0	20
病 床 機 能	253	199	55
高度急性期	0	0	0
急性期	50	46	35
回復期	0	110	0
慢性期	203	43	20
介 護 医 療 院	—	—	—
主 な 病 院 機 能	<ul style="list-style-type: none"> ・急性期機能及び慢性期患者の機能維持を担う病院 ・救急告示病院 ・無料低額診療事業 ・急性期一般入院料5 ・障害者施設等入院基本料(10対1) ・療養病棟入院基本料1 	<ul style="list-style-type: none"> ・救急告示病院 ・在宅療養支援病院 ・脳卒中回復期を担う病院 ・急性心筋梗塞回復期を担う病院 ・急性期一般入院料6 ・障害者施設等入院基本料10対1 ・回復期リハビリテーション病棟入院料2 ・地域包括ケア病棟入院料1 	<ul style="list-style-type: none"> ・救急告示病院 ・山城北二次病院群輪番病院 ・急性期一般入院基本料6 ・療養病棟入院料1 ・在宅療養あんしん病院等支援
自 施 設 の 現 状	<p>OH26.11より旧法人から事業を引き継ぎ、H29より253床（回復期50床、療養113床、障害者90床）で稼働、急性期及び介護施設等の高齢者の受入を中心に、R3の平均病床稼働95.6%と高い稼働率を維持。</p> <p>○訪問看護ステーション、訪問リハビリ、老人保健施設、特別養護老人ホーム、ディサービス、ケアプランセンター、さらに今年度より訪問診療を実施し、地域包括ケアシステムの機能を有する。</p> <p>OR3より泌尿器科による「小線源治療」を施行し、京都府外からの受診患者も多い。</p> <p>○新型コロナワクチン接種において令和3年度に延べ11,377人の接種を受入。</p>	<p>OH29.1療養病棟を辞退、260床から199床へ減床（慢性期を減床）。また、H30.6病床再編により急性期・回復期機能に特化することを明確化。</p> <p>○急性期機能の受入れは、時間外来や救急からの緊急入院や在宅患者の急変に伴う入院が主である。</p> <p>○回復期リハビリ病棟を新型コロナウイルス感染症受入病棟（30床）とし、中等症・軽症者の受入れを行っている。</p>	<p>○産婦人科・小児科・内科・外科・整形外科・皮膚科を標榜、地域のかかりつけ医として、一次、二次の救急も含めて地域医療を支える。特に地域の産科・小児科受入が縮小する中、たらい回しにならないようできる限り対応。</p> <p>○高齢者への医療・看護に力を入れており、訪問診療や併設の訪問看護ステーション、関連施設の高齢者複合施設を通じて、高齢者の治療・看護・介護に関して地域包括システムの一役を担う。特に訪問看護分野では利用者の信頼も厚く、地域で高い評価を得ている。</p> <p>○学校区、企業健診も積極的に受け入れている。</p>
自 施 設 の 課 題	<p>○施設の老朽化に伴い、建替え、移転等について具体的な検討を行う段階である。</p>	<p>○急性期・回復期機能を維持し、近隣高度急性期病院との連携を強化していくために必要な看護職員の確保・定着と質的向上を図る。</p> <p>○リハビリスタッフの教育・育成により、質の高いリハビリテーションを受けられる体制強化。</p> <p>○回復期リハビリ病棟を新型コロナウイルス感染症受入病院（30床）とし、中等症・軽症者の受入を行っている。</p>	<p>○建物の老朽化が課題で、今後、感染症に対応できる構造を踏まえた建て替え、改築の必要がある。</p> <p>○オンライン診療を始め、多岐にわたるIT化の推進も課題の一つである。</p>

<p>地域において今後担う役割</p>	<p>○社会福祉法人立病院として、地域における経済的・社会的困窮者に対する、無料・低額で医療を提供。 ○高度急性期病院の後方支援病院 ○地域の一般急性期病院 ○機能回復～生活期へのリハビリを行い在宅復帰を担う ○地域のレスパイト需要に対応 ○在宅医療を支援する医療機関</p>	<p>○近隣の高度急性期病院のバックアップ機能として、急性期、回復期機能を維持し、転院依頼を断ることなくスムーズに受入れ、高度急性期病院がストレスなく重症患者を常に受け入れられるようサポート。 ○軽い脳梗塞や大腿骨頸部骨折、肺炎、尿路感染症など軽症から中等症の急性期入院患者は地域密着型の当院で診療。 ○地域密着型病院として、急性期大病院との連携や診療所の在宅支援だけでなく、介護や福祉、保健、介護予防への取り組みも行っていく。</p>	<p>○少産少子化で分娩施設や小児に対応できる施設が減る中、今後も地域の周産期医療を守るとともに、母子がいつでも診てもらえ、相談に乗れるような安心の子育て環境が出来るように協力していきたい。 ○地域医療を担う病院として、医療を通じて地域の住民の健康を守り、福祉の向上に寄与できるよう、地域の医療を支えていきたい。</p>
<p>今後の展望</p>	<p>○当該地域において医療・福祉・介護に対し近隣医療機関等と連携し、シームレスな地域となることを主導していく。 ○病院施設の移転・建替えを通じて地域ニーズに合致した医療体制を構築する。</p>	<p>○法人内での許可病床編成の見直しも検討する。同一医療圏における同一開設者が開設する病院間の病床移転を検討。 ○経営基盤を確立し、老朽化した医療機器の随時更新並びに最新検査医療機器等の導入、療養環境の整備。 ○高度急性期病院との連携強化し、当院で急性期・回復期機能を受入れ、慢性期・生活期機能の病院・施設へ橋渡しを行っていく。</p>	<p>○引き続き、産婦人科・小児科については、患者様に寄り添った細やかな医療を提供し、地域から信頼される病院として貢献する。 ○内科、外科については慢性期を中心に、近隣急性期病院の後方病院として役割を果たしていく。 ○訪問看護ステーションは地域でも高く評価されており、今後の在宅看護の需要の高まりを見据えて、更に力を入れていく。 ○ひとつの医療機関だけでは完結するものではないので、医療機関の連携状況を考慮して、当病院の役割をしっかりと担っていきたい。</p>
<p>新興感染症対応における病院機能</p>	<p>○陽性患者の入院受入医療機関 ○診療検査医療機関（外来医療）</p>	<p>○陽性患者の入院受入医療機関</p>	<p>○療養支援（感染症からの回復患者受け入れ） ○陽性妊婦の分娩受入 ○発熱外来</p>

病院の役割と今後について（令和4年7月1日時点）

病 院 名	宇治川病院	宇治徳洲会病院	洛南病院
所 在 地	宇治市小倉町老ノ木31	宇治市横島町石橋145番	宇治市五ヶ庄広岡谷2
許可病床数（床）	179	473	256
一般（床）	179	473	0
療養（床）	0	0	0
精神（床）	0	0	256
結核（床）	0	0	0
感染症（床）	0	0	0
主 な 診 療 科 目	内科 外科 整形外科	救急科 心臓血管内科 外科	精神科 内科
病床の種別（一般）	179	473	0
〃（療養）	0	0	0
病 床 機 能	179	473	0
高度急性期	0	67	0
急性期	0	364	0
回復期	0	42	0
慢性期	179	0	0
介 護 医 療 院	—	—	—
主 な 病 院 機 能	<ul style="list-style-type: none"> ・救急告示病院 ・在宅療養あんしん病院 ・障害者施設等入院基本料（難病指定病院） 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域周産期母子医療センター ・救命救急センター ・救急告示病院 ・地域災害拠点病院 ・地域医療支援病院 ・在宅療養後方支援病院 ・地域がん診療連携拠点病院 ・脳卒中急性期、回復期を担う病院 ・急性心筋梗塞急性期、回復期を担う病院 	<ul style="list-style-type: none"> 精神科救急システム基幹病院 精神科療養入院基本料2（15：1） 精神科救急入院料 精神科急性期治療病棟入院料
自 施 設 の 現 状	<p>○最新の医療設備を整備し、内科、外科、整形外科、神経内科、眼科、耳鼻咽喉科、泌尿器科、皮膚科、精神科、診療内科の経験豊富な医療従事者を配備し、急性期から回復期、慢性期の病床機能を担う。</p> <p>○訪問看護ステーション、居宅介護支援センターを設け、医療・介護サービス両面から患者様のニーズに応じたきめ細かい満足のいくサービスを提供することにより、地域医療に貢献。</p> <p>○昨年9月より寺田ホーム（特定施設入居者生活介護）を城陽市に開設して介護機能を強化。</p>	<p>○コロナ大流行時、2次救急病院がほとんど夜間の発熱救急を断るため、当院に発熱患者が集中していたにもかかわらず、コロナの第1波以降から救急患者は年間97.5%の応需率を維持。</p> <p>○コロナ感染症の重症患者はICUを備えた高機能の病院でなければ治療が難しく、患者さんの急増に対して病床が逼迫し、府の医療崩壊の危機に直面しているにもかかわらず、当院では、夜間でもコロナ陽性重傷患者の受け入れ、断り照会回数の多い京都市内の救急患者を受入。</p> <p>○府南部の1次救急体制は脆弱であり、小児、発熱患者も含め1次から3次救急医療を24時間提供している。</p>	<p>○府内唯一の公立精神単科病院として、精神科領域における政策医療を担う。</p> <p>○府南部地域における精神科救急システムの基幹病院、認知症疾患医療センター（地域型）、依存症専門医療機関（アルコール、薬物、ギャンブル）</p> <p>○児童思春期精神科医療や司法精神医学（鑑定入院、医療観察法指定通院等）など、専門医療に取り組んでいる。</p>
自 施 設 の 課 題	<p>○施設の老朽化対策が必須。</p> <p>○病院の耐震改修工事を実施予定。</p> <p>○京田辺市大住丸山同池ノ谷 8384㎡に一部病院機能をの移設を検討している。</p>	<p>○高度急性期・急性期患者治療後、サブアキュートの後方病床がなく近隣病院へ転院照会するが、常時満床で受入困難な事例が多数発生し、救急受入病床が確保できず救急搬送受入依頼を断ざるを得ない。この課題を解消するには、自院の急性期病床を増やして救急を断ることなく受け入れできる救急病床確保体制を構築するしかない。</p>	<p>○多様化する精神科医療ニーズへの対応。</p> <p>○今後の山城北圏域の高齢化推移を考慮し、認知症治療の取り組みを強化。</p> <p>○少子化対策の一環として児童精神科や発達障害への対応（初診待機期間の短縮など）。</p> <p>○老朽化した施設・設備更新、療養環境改善やバリアフリー対応。</p> <p>○経営収支改善。</p>

<p>地域において今後担う役割</p>	<p>○医療・福祉・介護・予防・生活支援を一体的に提供する地域包括ケアシステムの構築に向け、引き続き高齢者にきめ細かい入院医療を提供するとともに地域医療が円滑に機能するように病院として尽力していく。</p>	<p>○感染症の重症患者を受け入れる重点医療機関として高度かつ専門的な高度急性期病院としての役割を継続</p> <p>○地域包括ケアシステムにおける医療・介護・福祉の連携システムを自己完結型で整備していくことができる地域総合拠点施設群の形成を確立。病院を本拠として、老健、特養、在宅療養支援診療所、訪問ステーション、ヘルパーステーションを敷地内や近隣で整備、今後はリハビリテーション病院、第2老健、サ高住、グループホームを整備する。</p> <p>○指定感染症医療機関として、新興感染症に対応しやすい施設・設備の整備並びに感染拡大時を想定した専門人材の育成を実施。</p>	<p>○認知症治療においてとぎれない医療提供のためのかかりつけ医、一般病院、専門医療機関等によるネットワーク体制の中核として機能。</p> <p>○国が提唱する「精神障害にも対応した地域包括ケアシステム」における医療、相談支援分野の主要な構成機関として機能。</p> <p>○身体科医療機関での対応が困難なケース（行動障害が伴う精神疾患やアルコール等依存のある患者等）にかかる連携、診療支援。</p> <p>○敏速な診療応需、新たな長期入院ニーズや難治例の引受。</p> <p>○保健所や児童相談所等と連携し、発達障害の専門的診断・治療を行いうる医療機関として機能</p> <p>○災害時の京都市域における精神科医療の拠点。</p>
<p>今後の展望</p>	<p>○外来診療の拡大 ○在宅への支援 ○急性期機能の拡大</p>	<p>○法人内での許可病床編成の見直しも検討する。同一医療圏における同一開設者が開設する病院間の病床移転を検討。</p> <p>○若手医療スタッフの教育・育成のため、別館増築を計画しており、教育・研修センターを整備。</p> <p>○新型コロナウイルス感染症の重症患者に対応できる高度急性期病院の必要性が広く認識され、当院はそれを認知されたものと思う。地域包括ケアシステムの構築と地域医療構想実現は、新興・再興感染症や大規模災害時に対応するためにも必要で、平時の体制が整っていないければ、緊急時の体制構築も困難なので、より一層、高度急性期・急性期機能の充実を図っていく。</p>	<p>○高齢化や精神科医療の進歩により、認知症や発達障害、依存症などの精神疾患を合併症としてもつ患者の受療機会が増加し、身体科医療機関と連携し、府内唯一の公立精神科病院として政策医療上の課題に取り組む。</p> <p>○かかりつけ医、身体科医療機関や保健福祉関係機関との連携を強化するための地域連携部門の体制強化や患者の地域生活を支えるアウトリーチ機能の強化を図る。</p> <p>○多様化する精神科医療ニーズに応えるとともに、患者の療養環境改善を図るため、現在地に於いて全面建替整備を行う。</p>
<p>新興感染症対応における病院機能</p>	<p>○診療検査医療機関（外来診療）</p>	<p>○陽性患者の入院受入医療機関 ○重点医療機関で重症者受入医療機関 ○診療検査医療機関（外来医療）</p>	<p>○陽性患者の入院受入医療機関 ○疑似症患者の入院受入医療機関</p>

病院の役割と今後について（令和4年7月1日時点）

病 院 名	京都きづ川病院	京都府立心身障害者福祉センター 附属リハビリテーション病院	南京都病院
所 在 地	城陽市平川西六反26番地1	城陽市中芦原	城陽市中芦原11
許可病床数（床）	313	25	335
一般（床）	307	25	300
療養（床）	0	0	0
精神（床）	0	0	0
結核（床）	0	0	35
感染症（床）	6	0	0
主 な 診 療 科 目	消化器内科 整形外科 脳神経外科	整形外科 リハビリテーション科 神経内科	呼吸器内科 小児科 脳神経内科
病床の種別（一般）	307	25	300（非稼働病床20）
〃（療養）	0	0	0
病 床 機 能	307	25	280
高度急性期	0	0	0
急性期	150	0	0
回復期	104	25	100
慢性期	53	0	180
介 護 医 療 院	—	—	—
主 な 病 院 機 能	・救急告示病院 ・脳卒中（急性期・回復期・維持期）を担う病院 ・急性心筋梗塞（急性期・回復期）を担う病院 ・難病医療協力病院		・在宅療養後方支援病院 ・難病医療協力病院
自 施 設 の 現 状	○2類感染症病床(6床)以外に新型コロナウイルス感染症患者受入病床を確保するため地域包括ケア病棟1棟を急性期一般病とした（受入21床・休止病床33床）。 ○介護職員不足	○府立医大と連携し高度な医療を提供するとともに、府南部地域における地域医療への積極的な貢献をめざし運動器、脳血管疾患、高次脳機能障害等への治療、リハビリを提供。 ○スポーツを通じた障害者支援活動としてパラパワーリフティング選手への医学的サポートを実施。 （診療科）整形外科・リハビリテーション科・神経内科・精神科・内科・泌尿器科・歯科	○呼吸器内科を中心に急性期医療の必要な重症度の高い患者を診療。 ○呼吸器内科医を多く配置（内科専門医6名、呼吸器指導医3名、呼吸器専門医8名）。 ○在宅酸素患者約180名、在宅人工呼吸器患者約60名を管理。 ○結核 府南部結核治療の拠点病院。R2.5以降は新型コロナにおいて、他の結核病院がコロナ対応に専念できるよう結核の受入範囲を拡大。ただし、結核患者数は減少傾向が継続、将来には縮小対応が見込まれる。
自 施 設 の 課 題	○重症患者の救急患者受入態勢整備 ○地域連携 ○介護分野との連携 ○地域包括ケア病棟への他施設からの受入態勢の整備(現時点は、新型コロナウイルス感染症病床へ変更)	○築45年経過で老朽化が著しく、建替等が不可欠。 ○25床は病室、病床運用に限界があるため、増床も含めた十分な検討が必要と考えている。 ○専門治療とリハビリによる軽快後の生活の質の確保のための相談支援機関との連携。 ○併設の生活訓練、相談支援機関、法人内の他施設等との連携。	○結核病床はユニット化しているが他の入院患者を入れることが出来ず、診療点数の低さ、稼働率の低さから病院経営の足かせとなっている。結核病床を今後も維持していくためには、モデル病床化が不可欠と考える。

<p>地域において今後担う役割</p>	<p>○地域の介護、老人施設や病病・病診連携への体制整備 ○救急告示病院としての機能強化 ○人材確保と定着 ○ケアミックス型病院としての機能維持</p>	<p>○府立医大と連携を取りながら高度な医療を提供するとともに急性期から生活（維持）期までの切れ目のないリハビリを提供する。 ○地域連携部門の強化を図り、病診連携の充実、入院の受入、退院時の環境整備を行うなど、医療と福祉・介護の連携により地域における包括的な支援体制を提供する。</p>	<p>○慢性呼吸不全患者の急性増悪に対し、専門的で高度な呼吸医療を提供するとともに、様々な呼吸器疾患に対し先進的な医療を提供するためには、急性期病棟としての人員確保、施設整備を継続。 ○呼吸器疾患に対する専門的医療を提供し、結核医療についても府下の基幹病院としての役割を果たす。 ○在宅療養児（者）、医療的ケア児（者）支援の医療的管理を担当。在宅療養児（者）、医療的ケア児（者）の特性を十分に理解した、呼吸管理を含む専門的な急性期入院対応が求められる。 ○在宅療養の神経難病患者に対して医療的支援を積極的に行う。地域の神経難病患者の質の高い在宅療養生活を守るためにも、当院の急性期病院としての機能維持が必要。</p>
<p>今後の展望</p>	<p>○入退院支援センターの活用</p>	<p>○府立医大等と連携し、急性期から生活（維持）期までの切れ目のない治療・福祉・スポーツ施設等併設の特色を生かし、患者さんの生活・就労復帰をサポートする。 ○高齢化の進展に伴うリハビリテーション需要の増加、小児疾患や障害者等の生活支援等におけるリハビリテーションの果たす役割の拡大、医療・福祉の連携したリハビリテーション等に関わる人材育成や交流促進等も見込まれる。 ○地域包括ケアシステムの下、医療・介護・福祉の相互連携など医療施策の一翼を担い、地域はもとより府域の医療、介護、福祉ニーズに対応していくことを目指し、京都府とも連携し検討を深めていきたい。</p>	<p>○地域の紹介患者を積極的に受入、一定程度の急性期機能を提供していく。 ○後方施設として急性期総合病院からのポストアキュート患者の転院も積極的に受入、地域の急性期機能の維持に貢献。 ○セーフティネット医療（重症心身障害、神経難病等）を今後も継続して提供。 ○慢性呼吸不全患者に対する在宅酸素・在宅人工呼吸（マスクによるNPPV等）及び入院での長期呼吸リハビリを実施、呼吸管理における研究・臨床の中核的施設（呼吸ケアセンター）の役割。 ○地域の医療従事者への研修を開催、当院が積み重ねてきた経験・知見を幅広く提供し、山城北・南園域の診療の質向上に貢献。</p>
<p>新興感染症対応における病院機能</p>	<p>○陽性患者の入院受入医療機関 ○診療検査医療機関（外来医療） ○療養支援病院（感染症からの回復患者受入）</p>	<p>○療養支援（感染症からの回復患者受入） （回復後の受入に係る療養支援病院のグループ化に伴い、府立医大・岡本記念・田辺中央とグルーピングを行い、回復後患者を受入）</p>	<p>○陽性患者の入院受入医療機関 ○診療検査医療機関（外来医療） ○④療養支援（感染症からの回復患者受入） 重症心身障害の新興感染症患者への対応</p>

病院の役割と今後について（令和4年7月1日時点）

病 院 名	あそかビハーラ病院	ほうゆうリハビリテーション病院	男山病院
所 在 地	城陽市奈島下ノ畔3番3	城陽市寺田垣内後43番地の4	八幡市男山泉19番地
許可病床数（床）	28	88	199
一般（床）	28	47	199
療養（床）	0	41	0
精神（床）	0	0	0
結核（床）	0	0	0
感染症（床）	0	0	0
主な診療科目	緩和ケア内科	内科 外科 リハビリテーション科	内科 整形外科 外科
病床の種別（一般）	28	47	199
〃（療養）	0	41	0
病 床 機 能	28	88	199
高度急性期	0	0	
急性期	0	47	127
回復期	0	41	47
慢性期	28	0	25
介護医療院	—	—	—
主な病院機能	・在宅療養支援病院	・脳卒中（回復期・維持期）を担う病院 ・地域包括ケア病棟入院料3 ・回復期リハビリテーション病棟入院料1	・救急告示病院 ・二次病院群輪番制度協力医療機関 ・DPC標準病床群 ・急性期一般入院基本料1 ・回復期リハビリテーション病棟入院料1 ・緩和ケア病棟入院料
自施設の現状	<p>OR4.10.1より新法人である一般財団法人日仲会ビハーラ医療福祉機構へ事業譲渡。</p> <p>○病院の体制等については完全に引き継ぎ、かつ旧法人の母体である西本願寺とも連絡・連携をとり、あそかビハーラ病院の特色である終末期の緩和ケア病棟及びビハーラ活動の発展に努める。</p>	<p>○2018年11月に法人変更があり、リハビリテーションを中心とした病院となった。リハビリテーション部門の充実（セラピスト増員等）を図り、現状では41床の回復期リハビリテーション病棟と47床の地域包括ケア病棟を運営。</p>	<p>○内科、整形外科、外科をはじめ22の診療科目を標榜し、二次救急指定病院として、地域の医療需要に役立っている。</p> <p>○急性期機能を担う病院として医療を提供しつつ、回復期リハビリテーション、緩和ケア、人工透析等地域のニーズに対応。</p> <p>○併設事業として、デイケア、訪問リハビリ、訪問看護、ホームヘルパー、居宅介護支援事業所等、在宅サービスも展開。</p>
自施設の課題	<p>○職員確保が困難な立地であることは変わりが無い。継続して緩和ケアの力量の高い医療職の確保に努める。</p> <p>○新型コロナウイルス感染症の対策として研修・実習・見学に大きく制限をかけているが、今後の新規感染者数や国の方針、また当院スタッフの受け入れ態勢を総合的に勘案しながら慎重に再開の時期及び規模を検討する。</p>	<p>○建物の老朽化。リハビリテーションに適した環境には乏しく建替え等の必要性がある。（新築移転予定あり）</p>	<p>○救急等地域の急性期医療ニーズに応える為の医師確保体制の構築。</p> <p>○地域の病院や診療所との役割分担と効率的な連携体制の構築。</p>

<p>地域において今後担う役割</p>	<p>○新法人下でも西本願寺と連携を密にとり、仏教のホスピスとしての特色を継承して各医療機関・福祉施設等と柔軟に連携する。</p> <p>○がん患者やその家族にとってより身近にご利用いただける病院（ホスピス）を目指し、「当院の緩和」を周知するとともに、些細な事でも相談いただける窓口として、迅速で柔軟な対応が可能な施設を目指す。</p>	<p>○急性期治療後の患者を早期に積極的に受け入れ、急性期病院の負担を軽減することが当院の役割と認識している。</p>	<p>○八幡市の中核病院として急性期医療を担うとともに、回復期、慢性期、在宅医療、介護まで包括的なサービスを提供し、地域の高齢化支援に努める。</p>
<p>今後の展望</p>	<p>○コロナ禍や職員の体制の影響で十全に病床を活かし切れしていない現状を改善し、より多くの当院を希望する患者に携われるよう稼働率等の向上を目指す。</p>	<p>○2023年7月に宇治市へ新築移転。 ○移転後は全床（88床）回復期リハビリテーション病棟として運営予定。 ○更なる回復期リハビリテーションの充実を図ることにより、回復期医療の充実だけでなく急性期医療への支援も含め山城北医療圏の地域医療を支えていく。</p>	<p>○引き続き急性期機能を担う病院として、医療の質の向上に取り組み、地域医療に貢献するとともに、回復期機能、慢性期機能ともバランスのとれた医療を維持していく。</p> <p>○地域の医療・保健・福祉を一体的に提供する地域包括システムを構築し、また、地域に向けての医療に関する教育・啓発活動も積極的に行っていく。</p>
<p>新興感染症対応における病院機能</p>	<p>○入院対象患者が感染した場合の重症化・死亡リスクを鑑み、感染症の外来・入院等は受付していない。</p> <p>○従来の入院対象患者についても転院時に紹介元病院と連携をとり全件検査を実施。</p>	<p>○診療検査医療機関（外来医療） ○療養支援（感染症からの回復患者受入）</p>	<p>○陽性患者の入院受入医療機関 ○疑似症患者の入院受入医療機関 ○診療検査医療機関（外来医療） ○療養支援（感染症からの回復患者受入）</p>

病院の役割と今後について（令和4年7月1日時点）

病 院 名	みのやま病院	京都八幡病院	八幡中央病院
所 在 地	八幡市欽明台北4-2	八幡市川口別所61	八幡市八幡五反田39-1
許可病床数（床）	50	156	150
一般（床）	50	96	98
療養（床）	0	60	52
精神（床）	0	0	0
結核（床）	0	0	0
感染症（床）	0	0	0
主 な 診 療 科 目	内科 腎臓内科（人工透析） リハビリテーション科	内科 外科 リハビリテーション科	整形外科 内科 循環器内科
病床の種別（一般）	50	96（非稼働病床36）	98
〃（療養）	0	60	52
病 床 機 能	50	0	150
高度急性期	0	0	0
急性期	0	0	0
回復期	0	0	98
慢性期	50	60	52
介 護 医 療 院	—	—	—
主 な 病 院 機 能	<ul style="list-style-type: none"> 在宅療養支援病院 在宅療養あんしん病院 障害者施設等入院基本料 	<ul style="list-style-type: none"> 急性期治療を終えて長期にわたり療養治療が必要な肢体不自由患者・意識障害患者等の受入れ医療機関（障害者病棟）。 在宅療養あんしん病院 	<ul style="list-style-type: none"> 救急告示病院 脳卒中（回復期）を担う病院 急性心筋梗塞（回復期）を担う病院 在宅療養あんしん病院 地域包括ケア病棟入院料1 地域包括ケア病棟入院料3 医療療養病棟入院基本料1
自 施 設 の 現 状	<p>○内科、腎臓内科（人工透析）、リハビリテーション科など7つの診療科を標榜。特定健診、新型コロナワクチン、インフルエンザワクチンなど保健・予防事業を実施。</p> <p>○障害者施設等病棟（50床）は、重症化した透析患者をはじめ、重度介護者のレスパイト入院等、地域の医療機関から紹介された高齢者の入院治療を中心に受入。</p> <p>○在宅療養支援病院として在宅医療部による訪問診療、デイケアセンター（通所リハ）、訪問リハビリの事業を実施し、地域包括ケアシステムを担えるよう取り組んでいる。</p>	<p>○系列の八幡中央病院とともに、八幡市を中心とする地域ニーズや八幡市の健康医療行政の要請に対応。</p> <p>○八幡中央病院は回復期（地域急性期）、当院は慢性期を担当する機能再編を実施。急性期治療を終えて長期にわたり療養治療が必要な肢体不自由患者・意識障害患者等を受入。外来機能の役割分担を実施。</p> <p>○在宅訪問診療を実施。</p>	<p>○系列の京都八幡病院とともに、八幡市を中心とする地域ニーズに対応。当院は回復期（地域急性期）、京都八幡病院は慢性期を担当する機能再編を実施。併せて外来機能の役割分担を実施。</p> <p>○地域の2次救急受入を強化（サブアクト）。</p> <p>○患者サポートセンター（地域連携と入退院支援を統合）の立上げにより、転院調整機能（ポストアクト）と在宅復帰支援機能を強化。</p> <p>○人工透析センターを京都八幡病院から八幡中央病院に新設移転済で、今後外来透析や、入院透析の提供体制を拡充方針。</p> <p>○法人の老健やサ高住とも連携し、医療介護機能を一体で提供。</p>
自 施 設 の 課 題	○開設してからまだ8年目であり、地域住民や圏域の医療機関からの知名度が低く、今後広報活動等を強化し、より地域ニーズに答えていきたい。	○施設の老朽化への対応	<p>○施設の老朽化への対応</p> <p>○地域ニーズに合った在宅機能の拡充。</p>

<p>地域において今後担う役割</p>	<p>○医療・保健・介護・予防を一体的に提供する地域包括ケアシステム構築向上を引き続き目指し、高齢者・障害者の入院医療を提供するとともに、在宅医療を支援できるよう終末期の看取り対応、緊急入院受け入れ等を行なっていく。</p>	<p>○系列の八幡中央病院と実質一体での医療提供機能の強化・効率化。入退院に関する窓口を一元化。 ○慢性期医療及び在宅医療の提供継続。 ○老朽化した京都八幡病院と八幡中央病院の統合建替えを実施予定。 (八幡中央病院のアンケート参照)</p>	<p>○地域医療・介護の一体的・包括的な提供（地域包括ケア）。 ○今後の在宅需要の増大に向け、在宅医療（訪問診療、訪問看護、訪問リハ）の展開拡大を図り、地域の診療所の負担軽減にも注力。 ○八幡市と緊密に連携し、感染症対策や予防医療等の提供機能を強化。</p>
<p>今後の展望</p>	<p>○山城北医療圏における病床整備計画によって増築準備を進めている。地域包括ケア病棟（20床）を新たに開設。 (2025年度) ○同年、人工透析ベッドの増床（30床→41床） ○居宅介護支援事業所開設（2025年度）を目指し、地域の介護事業所との連携強化、在宅の高齢利用者との関わりを拡大する。</p>		<p>○老朽化した両病院の統合建替えを実施。「医療機能の集約化・効率化・高度化」「患者、職員のアメニティー向上」「パンデミックへの対応力の強化」「自然災害等へのBCP対策の強化」を目指す。 ○八幡市を中心とした地域のニーズに根差した、更なる医療介護の提供体制の拡充。</p>
<p>新興感染症対応における病院機能</p>	<p>○診療検査医療機関（外来医療） ○療養支援（感染症からの回復患者受入）</p>	<p>○診療検査医療機関（外来医療）</p>	<p>○陽性患者の入院受入医療機関 ○疑似症患者の入院受入医療機関 ○診療検査医療機関（外来医療） ○療養支援（感染症からの回復患者受入）</p>

病院の役割と今後について（令和4年7月1日時点）

病 院 名	田辺病院	京都田辺記念病院	京都田辺中央病院
所 在 地	京田辺市飯岡南原55番地	京田辺市田辺戸絶1番地	京田辺市田辺中央6丁目1番地6
許可病床数（床）	291	120	167
一般（床）	0	0	167
療養（床）	109	120	0
精神（床）	182	0	0
結核（床）	0	0	0
感染症（床）	0	0	0
主 な 診 療 科 目	精神科 内科	リハビリテーション科 人工透析内科 内科	循環器内科 整形外科 小児科
病床の種別（一般）	0	0	167
〃（療養）	109	120	0
病 床 機 能	109	120	167
高度急性期	0	0	60
急性期	0	0	55
回復期	0	120	52
慢性期	109	0	0
介 護 医 療 院	—	—	—
主 な 病 院 機 能	<ul style="list-style-type: none"> ・在宅療養あんしん病院 ・精神病棟入院基本料（15対1、30対1） ・療養病棟入院基本料1 	<ul style="list-style-type: none"> ・脳卒中（回復期）を担う病院 ・回復期リハビリテーション病院（脳血管疾患1、運動器疾患1） ・回復期リハビリテーション病棟入院料1 ・京都府リハビリテーション教育センター教育指定病院 ・人工透析（外来・入院）実施医療機関 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域周産期母子医療センター ・救急告示病院 ・在宅療養支援病院 ・在宅療養あんしん病院 ・脳卒中（急性期）を担う病院 ・急性心筋梗塞（急性期）を担う病院 ・二次病院群輪番制度協力医療機関 ・DPC標準病院群
自 施 設 の 現 状	<p>○認知症患者を中心とする精神科と医療療養病棟の内科による慢性期治療を中心とする。</p> <p>○音楽療法を含む作業療法及び理学療法のリハビリやレクリエーション活動も積極的に行う。</p> <p>○長期療養を必要とする内科疾患の患者の入院医療を提供。</p>	<p>○回復期リハビリテーション病棟として、在宅復帰を支援しており、直近実績で在宅復帰率85%以上、重傷者改善率60%以上。</p> <p>○訪問リハビリテーション事業所も有しており、必要に応じて退院後の患者フォローも行っている。</p> <p>○人工透析については、外来通院患者を中心に約150名を受入。骨折術後などで回復期リハビリテーションが必要となった透析患者が、入院のリハビリテーションを受けながら維持透析を実施できることは特色の一つ。</p>	<p>○京田辺市を中心とする南部地域の二次救急医療機関として救急医療を提供。2020年秋西館竣工に伴い、手術室や医療機器などハード面を整備。</p> <p>○小児科・産婦人科を備え、ハイリスク妊婦の出産対応や産後ケア、小児の予防接種対応など、地域における子育て支援に対して医療的側面からサポートしている。</p> <p>○小児救急輪番については、山城北園域のみならず、山城南園域の応需も行う。</p> <p>○新型コロナに際しては、発熱外来の運用、妊婦・小児・透析患者を中心とする陽性患者の入院受入を流行初期から実施。府からの委託により集団接種会場としての機能も果たし、当院の職員が休日を返上して実際の接種対応に当たっている。</p>
自 施 設 の 課 題	<p>○引続き認知症高齢者を幅広く受け入れ、長期療養が可能な病院として機能していく。</p>	<p>○回復期リハビリテーションの質を維持するための継続的な医療従事者確保</p> <p>○地域の透析ニーズに応えるための透析実施枠の拡大、それに伴うスタッフのマンパワー確保</p>	<p>○現地建て替え工事計画の進行中であり、2年前より新型コロナ患者受入のために計画を一時中断して対応。</p> <p>○老朽化した建物の解体・新築を行い、昨年度配分を受けた病床についても全床運用できる環境を早期に整えたい。</p>

<p>地域において今後担う役割</p>	<p>○在宅生活が難しい認知症高齢者を中心に、引続き入院医療を提供する。 ○他院での対応困難な精神疾患の患者の入院医療を提供する。</p>	<p>○京都府リハビリテーション教育センターの教育指定病院として、リハビリテーション科医師をはじめとした医療従事者の育成を行う。 ○より質の高い回復期リハビリテーションおよび透析治療を提供できるよう努め、京都府南部地域における京都府地域包括ケア構想の一翼を担う。</p>	<p>○二次救急医療機関として救急医療を提供する。京田辺市は人口増加地域であり、新型コロナ感染拡大前は年間3,800件以上の救急車受入実績があり、今後も地域ニーズに応じていく必要がある。 ○山城北医療圏には公的病院が存在しないことから、外来診療においても一定幅広く診療を行えることが求められる。地域の診療所との連携をさらに深め、紹介患者の応需体制を強化して対応していく必要がある。 ○在宅診療においても、地域の診療所との連携を密にし、病院の立場からサポートする役割を担っていく。</p>
<p>今後の展望</p>	<p>○病院での入院医療と同法人内の三山木診療所での外来診療と連携を強化していく。 ○同法人内の認知症対応型通所介護のデイサービスみやまき及び通所リハビリテーションのデイケアあおぞらと在宅医療についても連携を図っていく。</p>	<p>○質の良い回復期リハビリテーションを提供することで、患者の生活の質の向上・在宅復帰支援に寄与し続けていきたい。 ○透析部門に関しては、透析導入患者のQOLを維持し、生活を支える視点でのかわりを継続していくとともに、透析受け入れ枠の拡大を図っていく。</p>	<p>○現地建て替えの第2期工事が竣工すれば200床を超える規模での運用となる。 ○脳卒中、循環器病、整形外科疾患等に加えてがん診療の充実を図り、地域完結型で一定の対応ができるよう、ハード・ソフト面の整備を進める。また、サブアキュート・ポストアキュート機能を有する「地域急性期病棟」・「地域包括ケア病棟」を開設。 ○新型コロナ感染症への対応で得られた経験を活かし、今後も柔軟に受入が行える体制とする。 ○小児・周産期医療については、隣接する山城南圏域も含めた形での基幹病院の役割を果たしていく。</p>
<p>新興感染症対応における病院機能</p>	<p>○診療検査医療機関(外来診療) ○その他、京田辺市の集団接種(新型コロナウイルスワクチン接種)を実施している。</p>	<p>○療養支援(感染症からの回復患者受け入れ)</p>	<p>○陽性患者の入院受け入れ医療機関 ※新型コロナは、一般の感染者に加え透析患者・妊婦・小児の受け入れを行っている。 ○診療検査医療機関(外来医療)</p>

病院の役割と今後について（令和4年7月1日時点）

病 院 名	同志社山手病院	久御山南病院	京都岡本記念病院
所 在 地	京田辺市同志社山手2丁目2番	久世郡久御山町坊之池坊村中28	久世郡久御山町佐山西ノ口100番地
許可病床数（床）	50	60	419
一般（床）	50	60	419
療養（床）	0	0	0
精神（床）	0	0	0
結核（床）	0	0	0
感染症（床）	0	0	0
主な診療科目	内科 小児科 脳神経内科	内科 耳鼻咽喉科 整形外科	循環器内科 消化器内科 脳神経外科
病床の種別（一般）	50	60	419
〃（療養）	0	0	0
病床機能	50	60	419
高度急性期	0	0	168
急性期	0	0	192
回復期	0	0	59
慢性期	50	60	0
介護医療院	—	—	—
主な病院機能	<ul style="list-style-type: none"> ・脳卒中（維持期）を担う病院 ・重度意識障害・難病患者等、障害者病棟入院基本料に該当する患者の入院療養 ・小児科、内科、脳神経内科の外来診療（地域のかかりつけ医的機能） 	<ul style="list-style-type: none"> ・救急告示病院 ・二次輪番病院群輪番制度協力医療機関 ・障害者施設等入院基本料 ・在宅療養支援病院 ・在宅療養あんしん病院 	<ul style="list-style-type: none"> ・救急告示病院 ・地域災害拠点病院 ・在宅支援を担う病院（在宅療養支援病院、在宅療養後方支援病院） ・地域がん診療拠点病院 ・脳卒中（急性期・回復期・維持期）を担う病院 ・急性心筋梗塞（急性期・回復期）を担う病院 ・地域医療支援病院
自施設の現状	<p>○重度意識障害や神経難病疾患に伴って人工呼吸器管理が必要な方を含め、長期療養が必要な障害者の入院受入。</p> <p>○新興住宅地に所在しており、徒歩圏内に他の診療所が所在していないため地域医療（特に小児科）の高いニーズがある。</p> <p>○専門医による「頭痛外来」実施など、独自の特色を打ち出している。</p> <p>○新型コロナウイルス感染症拡大時期には、多数の発熱患者の診療を行った。</p>	<p>○内科、耳鼻咽喉科、整形外科を主に外来（朝・昼・夜診）診療、特定健診、がん検診、企業健診、産業医活動等、予防医療。</p> <p>○慢性期の障害者施設等入院基本料の対象である難病、障害者等、人工呼吸器患者様の入院受入。</p> <p>○訪問看護ステーション、小規模多機能型居宅介護、訪問リハビリテーション。</p> <p>○関連施設の特養の協力医療機関とし、高齢者の入院受入、施設での看取りにも対応。</p> <p>○誤嚥性肺炎での入院を少なくするため、嚥下評価、摂食機能訓練に力を入れている。</p> <p>○重度心身障害者（児）の医療型短期入所2床（空床型）の提供を行っている。</p>	<p>○高度急性期・急性期医療を中心として取り組み、八幡・京田辺・長岡京・向日市からの需要も高まっている。</p> <p>○高速道路に近い立地を強みに広域での救急医療を行っており、救急搬入6,066件、独歩患者4,384人の受入、救急車からの入院率は48%。</p> <p>○コロナ専用病床（重症者）3床。</p> <p>○がん診療では外来治療センター（がん化学療法）で年間3,402件の抗悪性腫瘍剤を用いた化学療法を行い、放射線治療専門医が配置される放射線治療では、264人の照射、悪性腫瘍手術は657件施行、緩和ケア病床も11床設置。</p> <p>○臨床研修指定病院として医師の育成を行っている。</p>

<p>自施設の課題</p>	<p>○近隣に医療療養病床を有する施設が少ないため、在宅療養が難しい状況の方であるにもかかわらず入院先がないという患者についても、当院にて一定受け入れざるを得ない状況が生じている。</p> <p>○外来医療に関しては、高まるニーズに対応できるよう常に体制をブラッシュアップしていく必要がある。</p>	<p>○外来診療は従来から朝・昼・夜診を行っており、継続のための医師確保。</p> <p>○難病、人工呼吸器の患者様の入院受入に際し、近隣医療機関との連携強化、看護職員のスキールアップとし特定行為研修制度の受講。</p> <p>○介護サービスにおける継続した介護人材の確保。</p>	<p>○地域において回復期病床が不足しており、急性期終了後の患者が急性期病床に滞留し、高度急性期医療が必要な患者の受入れが困難なケースが発生。特に脳卒中・心筋梗塞が多発する寒冷期は急性期から回復期への移行が著しく困難となっている。</p> <p>○増加する救急搬送に対応する入院病床が不足。</p> <p>○地域医療ニーズを加味した医師確保体制の構築。</p>
<p>地域において今後担う役割</p>	<p>○地域連携の中での役割として、慢性期機能の病棟として難病患者を中心とした入院受け入れを継続。</p> <p>○同地域にお住まいの方にとっての「かかりつけ医」としての役割を果たせるような外来診療を提供する。</p>	<p>○特定健診、がん検診、企業健診等の予防医療を行い疾病の早期発見、早期治療を行なう。また、専門科、手術等は急性期病院へ紹介する。</p> <p>○難病、障害者（人工呼吸器管理を含む）および高齢者の入院受入。</p> <p>○重度心身障害者（児）の医療的ケアが必要な方の短期入所サービスの提供。</p>	<p>○『紹介患者は絶対に断らない』方針のもと、両医師会と連携し、病診・病病連携に積極的に取り組む。</p> <p>○地域がん診療拠点病院として専門的ながん医療の提供、がん診療の地域連携協力体制の構築、がん患者・家族に対する相談支援及び情報提供。</p> <p>○コロナ患者受け入れ等の感染症対策。</p> <p>○薬剤師会・社会福祉協議会・市町村・消防署・地域各種機関との連携。</p> <p>○地域住民への健康教室を開催し、健康増進を図るとともに高校生・中学生へのACP教育/救命講習等を通じ、医療介護従事者の次世代育成を継続して行う。</p>
<p>今後の展望</p>	<p>○慢性期入院医療を担う病院として、地域の他の医療・介護施設との連携をさらに強化していく。</p> <p>○府の保健医療計画ならびに地域包括ケア構想の展開に合わせて、地域に求められる医療を展開していく。</p>	<p>○外来診療を継続するための診療体制の強化。</p> <p>○難病、障害者（人工呼吸器管理）の入院受入および医療的ケアが必要な重度心身障害者（児）の受入に際する看護職員への研修制度の充実。</p>	<p>○新たに回復期機能に特化した100床の病院を新規開設し、回復期機能病床を充実する。これにより現在の高度急性期、急性期医療の一層の充実を可能とするだけでなく、医師会等との連携強化により在宅医療との一層の連携・充実を担う。</p> <p>また、増加する救急搬送に対応するための救急専用病床を確保する。</p> <p>○新型コロナウイルスの感染拡大により、山城北医療園のみならず、府全体の新興感染症に対する入院治療体制の脆弱さが明らかとなった。病院新築は新興感染症拡大時に感染症専用病院へ転用可能な構造と機能（重症病床を含む）を予め備えたものとする。</p>
<p>新興感染症対応における病院機能</p>	<p>○診療検査医療機関（外来医療）</p>	<p>○診療検査医療機関（外来医療）</p> <p>○疑似症患者の入院受入医療機関</p> <p>○陽性患者の外来診療医療機関</p> <p>○療養支援（感染症からの回復患者受入）</p>	<p>○陽性患者の入院受入医療機関</p> <p>○診療検査医療機関（外来医療）</p>